



2025年5月15日

各位

会社名 三光産業株式会社
代表者名 代表取締役社長 石井 正和
(コード番号 7922)
問合せ先責任者 執行役員 木田 大介
管理統括本部長
(電話番号 03-3403-8134)

特別損失(連結・個別)の計上並びに業績予想値と実績値との 差異に関するお知らせ

当社は、2025年3月期において、特別損失(連結・個別)を計上するとともに、最近の業績動向等を踏まえ、2024年5月15日に公表いたしました2025年3月期(2024年4月1日~2025年3月31日)の通期連結業績予想および通期個別業績予想と実績値との差異について下記の通りお知らせいたします。

記

1. 特別損失(連結・個別)の計上について

(1) のれんに係る減損損失(連結)の計上

当社グループは新たな成長分野の企業を有することで将来にわたる持続的な成長を目的として、2022年6月にアクシストラス社の株式を取得し、同社を連結子会社化いたしました。同社は大手ECサイトで空気清浄機、サーキュレーターなどの販売を続けてまいりました。しかしながら商品の陳腐化に伴い、主力製品の販売減少幅が想定より大きく、収益性が悪化いたしました。そのため、新製品の投入および外部マーケティング会社を活用してマーケティング戦略再構築による販売回復、販管費比率の低減により収益性向上の改善を目指しました。しかしながら、期初計画に対して業績見通しが乖離している状況が続いております。これに伴い、2025年3月期にのれんの減損損失として、同社に係るのれん残高全額である77百万円を特別損失に計上いたしました。

(2) 関係会社株式評価損(個別)の計上

当社の連結子会社であるアクシストラス社における収益性の悪化に伴う純資産の棄損を要因として当社が保有する同社株式に係る関係会社株式評価損228百万円を特別損失に計上することといたしました。なお、当該関係会社株式評価損は、個別決算のみ計上され、連結決算において消去されるため、連結損益に与える影響額はありません。

(3) 貸倒引当金繰入額(個別)の計上

当社の連結子会社であるアクシストラス社は、当連結会計年度末において債務超過になるため、貸倒引当金繰入額25百万円を計上することといたしました。

また、連結子会社であるサンコウサンギョウ(バンコク)は現状の事業状況を踏まえ、同社への関係会社貸付金に対して、貸倒引当金繰入額47百万円を計上することといたしました。

なお、当該貸倒引当金繰入額は、個別決算のみ計上され、連結決算において消去されるため、連結損益に与える影響額はありません。

(4) 債務保証損失引当金繰入額(個別)の計上

当社の連結子会社であるトムズクリエティブ社の債務超過額が拡大するため、当社2025年3月期個別決算において、トムズクリエティブ社に対する債務保証損失引当金繰入額96百万円を特別損失として計上することといたしました。

なお、当該債務保証損失引当金繰入額は、個別決算でのみ計上され、連結決算において消去されるため連結損益に与える影響額はありません。

3. 通期業績予想値と実績値の差異について

(1) 2025年3月期通期連結業績（2024年4月1日～2025年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
前回発表予想（A）	百万円 9,973	百万円 179	百万円 189	百万円 263	円 銭 40.93
実績値（B）	9,666	82	126	86	11.16
増減額（B－A）	△307	△97	△63	△177	
増減率（%）	△3.1	△54.1	△33.2	△67.3	
（ご参考）前期実績 （2024年3月期）	10,356	71	190	△94	△14.63

(2) 2025年3月期通期個別業績（2024年4月1日～2025年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
前回発表予想（A）	百万円 7,614	百万円 87	百万円 97	百万円 171	円 銭 26.61
実績値（B）	7,555	55	91	△230	△29.87
増減額（B－A）	△59	△32	△6	△401	
増減率（%）	△0.8	△36.8	△6.2	—	
（ご参考）前期実績 （2024年3月期）	7,934	△86	33	△179	△27.86

配当につきましては、前回公表値（1株当たり10.00円）より変更はありません。

当社は、従来より株主の皆様への利益還元を重要な経営課題と位置付けており、今後も安定的な配当を継続することで、還元を実現してまいります。

4. 差異の主な理由

(1) 連結業績

売上高および利益面につきましては、個別業績の影響のほか、一部の子会社において、シナジー効果が当初想定より低く、限定的であったため当初計画を下回る結果となりました。

親会社株主に帰属する当期純利益につきましては、前述の子会社にかかる特別損失の計上により、前回発表より下回る結果となりました。

(2) 個別業績

売上高につきましては、不採算事業の撤退による影響や、国内の受注量が減少したことにより前回発表予想を下回る結果となりました。

営業利益につきましては、生産効率化を進め、期末にかけ一定の改善効果が出始めたことにより、黒字転換となったものの、依然として円安の進行に伴う仕入価格の上昇や不安定な国際情勢に起因するエネルギーコストの高騰に伴う物価上昇等により、製造コストが増加したこと等により前回発表予想を下回る結果となりました。

経常利益につきましては、概ね計画通りであります。

当期純利益につきましては、上記1. 特別損失（連結・個別）の計上について(2)、(3)及び(4)の要因により前回発表より下回る結果となりました。

以上